

国語

〈注意〉

- 一 「始め」の合図あいずがあるまで、中を開けないで、注意事項をよく読んでください。
- 二 解答用紙は中に折り込まれています。最初に受験番号と氏名を解答用紙の指定欄らんに記入してください。
- 三 解答はすべて解答用紙の指定欄に記入してください。
- 四 字は濃こく、はっきりと丁寧ていねいに書いてください。
- 五 字数には、句読点くとうてんも記号も一字として数えます。
- 六 鉛筆えんぴつ・シャープペンシル・消しゴム以外は使用できません。
- 七 問題冊子さつしは17ページまであります。
- 八 開始・終了は監督かんとくの先生の合図あいずに従したがってください。
- 九 早く解とき終わっても教室の外には出られません。
- 十 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

一、次の文章を読んで、あとの各問いに答えなさい。

「わたし、部活と絵画教室だけで、せいっぱいなんだよね。それなのにお母さんったら、そろそろ受験勉強を始めた方がいいって言い出して。塾の日を、週一から週三に変えなさいって言うのよ。信じられる？ わたしまだ中二だよ？ 絵画教室も、やめさせられそうでキョーフ。うちのお兄ちゃん、本当は公立の高校に行きたかったのに、無理に難しい私立に入れられちゃったもんだから、なんかもう、すっごくたいへんそうなの。わたしも、そうなっちゃうのかなあ」

穂香はパンを食べ切ると、アイロンがきつちりとかかった、きれいなさくら色のハンカチで軽く指先を拭いた。

「わたし、高校は普通科じゃなくて美術科に行きたいんだよね。トコも一緒だと嬉しいんだけど。ね、どうかな？」

穂香の声を聞きながら、わたしはジャガイモの冷たいスープをスプーンですくって、口に運んだ。

「文化祭にも、このままじゃ間に合わないし、焦るなあ。ねえトコ、そろそろ戻って来て手伝ってよ」

穂香が、さっきからすごくうるさい。特に美術部の展示のことは、三日前くらいから、ずっと言われ続けている。

秋に行われる文化祭のため、部員全員が会場に飾る絵を描いているのだけれど、それがぜんぜん足りないのだという。

本当は、わたしも協力しなければならぬのだとわかっている。穂香が困っているのは知っているし、先輩は何も言わないけれど、

サボってばかりのわたしに、きつと呆れているはずだ。顧問の先生は、廊下ですれ違うたびに、さり気なくわたしの肩をポンツと叩く。

だけど穂香の絵の横に、自分の描いたものが並べられることを想像すると、どうしても描く気持ちになれないのだ。

「ねえ、トコったら」

② 穂香の声が、わたしの心をぎらぎらと削っていく。

昨日、思いがけず、パパからの電話をわたしが取った。おばあちゃんが台所で天ぷらを揚げていて、手が離せなかったからだ。「はい、広瀬です」と言うと、一瞬の間があいて「トーコ、トーコなのか?」と、パパのやさしい声が聞こえた。いきなりわたしが出たことで、少し驚いているようだった。

久しぶりに聞くパパの声はちっとも変わっていないくて、心臓の鼓動が速くなった。

パパのことなんて、すっかり忘れてしまったと思っていたけれど、わたしの名前を呼ぶそのひと言で、記憶はあっさりと戻ってきた。

「元気にしてる? パパのこと、覚えてる?」と、パパは言った。わたしは「当たり前でしょ」と、軽く答えたかった。「小二までは、一緒に暮らしていたんだから」と言っつて、笑いたかった。

だけど素直にそう言うことができず、実際には「ん」と、詰まったような返事をしただけだ。

パパはそれからゆっくりとした口調で「ママのこと、たいへんだったね。力になってあげられなくて、かわいそうなことをしたね。

ごめん、本当に」と言っつた。③ わたしがもう一度「ん」と言っつて黙っつてしまおうと「トーコ、パパと会っつてくれないかな。トーコの顔を見たいんだ。トーコ、大きくなっただろうね。話したいことがたくさんあるんだ」と続けた。

どうしたら良いのかわからずに、そのまま立っつているところに、おじいちゃんが現れた。

わたしは、何も悪いことなんてしてはいないはずなのに、なぜかおじいちゃんに申し訳ない気持ちになっつて、受話器をおじいちゃんに押し付けた。

そして「は?」と言っつただけで状況が飲み込めていないらしいおじいちゃんを残して階段を駆け上がり、自分の部屋へと飛び込んだ。

本当は、もっとパパの声を聞きたかったし、ずっと話していたかった。だけど、自分からそれをやめてしまった。

そのあとで、おじいちゃんとパパがどんな話をしたのかは、わからない。

しばらくして階下から「今さら、トーチちゃんに会ってどうしたいって言うんです？ もうあの人は、トーチちゃんとは関係ないじゃないですか。美鶴とトーチちゃんにづらい思いをさせておいて、今になってどうして……」という、^④おばあちゃんのかん高い声が聞こえてきた。

そしてそれにかぶせるように「手嶋君だけが悪いんじゃない。美鶴にだって、きっと問題はあつたんだ。^⑤ナれない外国生活で、ふたりがすれ違ってしまったのは、しかたないことなんだ」という、おじいちゃんの声もした。

ふたりとも、ふだんはそんなボリュームで会話はしない。だけどその時は、わたしの部屋の中にまで聞こえるくらいだった。「もう、トーチったら、ちゃんと聞いている？」

穂香が、わたしの目の前で手のひらをひらひらさせた瞬間^{しゅんかん}、わたしはその手を強く払いのけてしまった。それと同時に、

「しつこい！」

という言葉が、口から弾け出た^{はじ}。

「え？」

「穂香、しつこいんだってば。今はわたし、絵を描く気になんてなれないの。^⑥穂香はいろんなことに恵まれていて、だからきつとわからないと思うけど、そういう時だつてあるんだよ。みんなが穂香みたいに、いつもにこにこ笑ってられるわけじゃないんだよ」^⑦それまでわたしをまっすぐ見ていた穂香の目が、小さく左右に動いた。

穂香は何も悪くない。わたしが八つ当たりしているだけなのはわかっていたけれど、気持ちを抑えることができなかった。

「トコ、何怒ってるの？ わたし、そんなに悪いことした？」

穂香の震える声に、わたしは「はあっ」と大きなため息だけを返した。

「……穂香、こっち来て食べなよ」

わたしのすぐ後ろで、友達四人で机をくつつけていた凜々子が、珍しく、おずおずとそう言った。

「うん、おいでおいで」

「なんだろうね、トコってば突然キレて」

「気にすることないよ、穂香」

ほかの子たちがそう続けてから、机をずらす音がした。

⑧ サイテーだ。わたし、サイテーだな、と思いつつながら窓の外に目を向けて、降りしきる雨を、じっと見つめた。

「お願い。手嶋さんには、ママの病気のことには知らせないでちょうだい。何も言わないで、黙っておいて欲しいの」

ママがそう言ったのは、一回目の入院をした時のことだった。パパから届いた中学校の入学祝いに、お礼の手紙を書かなくてはいけないと、ママと話していた時のことだ。

ママは。パパと離婚したあと、それまで「パパ」と呼んでいたのを「手嶋さん」と、苗字で呼ぶようになった。わたし自身、帰国するまでは手嶋藤子だったのだから、少し妙な感じがした。

病室のベッドに上半身だけを起こしたママは「手嶋さんには、心配とか迷惑とか、かけたくないから」と言ったのだけれど、わたしは。パパに、ママの病気のことを知らせたかった。パパに頼りたかったし、そばにいて支えになって欲しかった。

ただでさえ、パパのいない生活は寂しかった。そのうえ、それまで元気だと思っていたママが入院することになり、心細くてたまらなくなった。

小学校の卒業式も中学校の入学式も、出てくれたのはママではなくて、おじいちゃんとおばあちゃんだったのだ。

千紘ちゃんには「トココがすっかりしなくちゃダメだよ」と言われていたけれど、すっかりなんて、しようと思つてできるものではない。胸の奥から湧いてくる不安や寂しさは、止めようがない。

アメリカにいた時に、誰かが誰かをハグする場面を何度も見た。

うっかり忘れ物をして慌てている子や、ケンカをして泣いている子を、親や先生が包み込むように抱きしめることはしょっちゅうだった。

⑩・カい犬を亡くしたおじいさんを、近所のおばさんやおじさんが、やさしく交互にかき抱く光景を見たこともある。

外国の映画やニュース映像でも、そういうシーンをよく目にする。誰かが悲しんだり泣いたりしていたら、そばにいる人がそつと肩に腕を回したり、両手を広げてその人を受けとめたりするのだ。

そういうことを、わたしは、パパにして欲しかった。赤ちゃんみたいに、体ごと包んで安心させて欲しかった。

だからパパに手紙を書くなら、わたしはその気持ちを伝えたかった。⑪
それなのにママは、わたしの気持ちより先に、パパのことを考えた。

わたしは、泣き出したい気持ちをぐつとこらえて、病室の窓から外を眺めた。灰色の空には、うつすらと虹が浮かんでいた。

「ママのことを、パパに知らせることもできないなんて、そんなのひど過ぎる」
しぼり出すように、わたしは言った。

「ママは、わたしのことなんて、ちっとも考えてくれてない。パパを残してアメリカを離れた時だって、わたしの気持ちは考えてなかったよね。そのうえ今度は病気になって、わたしにこんな寂しい思いをさせて。わたし、どうしたらいいのかわかんないよ」

⑫ 虹は空に近づくにつれて薄くなり、アーチを描くことなく途切れていた。わたしはママから目をそらしたまま、低い声で言い続けた。

「……わたしなんて、産まなきゃよかったのに」

「え？」

「ママにはちゃんと仕事があつて、パパには新しい奥さんがいて。それぞれの人生に、わたしなんて必要ないじゃん。ふたりが離婚したつてことは、結婚したことが間違いだつたつてことでしょうか？ ・シツパイだつたつてことでしょうか？ そんなふたりの間に生まれたわたしつて、いったい何なんだろうつて思うよ。わたしがここにいること自体、間違いだよね？ わたしなんて、ほんと、いない子じゃない」

それまでずっと我慢していた気持ちが、溢れ出ていくようだった。ひどい言葉を口にするたび、ママに対する意地悪な気持ちは、消えるどころか、ますます大きく膨らんだ。

病気のママを、泣かせてしまうかもしれない。わたしとママは、もう二度と仲良くなつてできないかもしれない。

そう思った時、ママは意外にもしっかりした声で、

「いるとかいらなとか、人つてそういうものじゃないでしょう？」
と言った。

「それにわたしは、トコを産んだなんて思つてないよ。トコはただ、自分の力で生まれて来てくれたんだから」

「は？ 何言ってるんママ、何勝手なこと言ってるの。そんなのおかしいし、^⑭すぐく無責任だよ」
抑えていたつもりおさの声こゑが、大きくなった。すると、淡い黄色あわのカーテンで仕切られた隣となりのベッドから、そこに寝ねているおばさん
の強い咳払いせきばらいが聞こえた。

それは「うるさい」という意思表示⑮だったのかもしれないし、ママを困らせているわたしへの、抗議のつもりなのかもしれないかっ
た。

わたしは、そのまましばらく黙り込んでしまった。

しんとした病室に、誰かが廊下を歩くキュツキュツという足音や、少し離れた所にあるエレベーターの到着チャイムが聞こえてき
た。

(中山聖子「その景色をさがして」より 一部表記・体裁ていさいを改めた)

問一、——①「廊下ですれ違くわうたびに、さり気なくわたしの肩をポンツと叩く」とありますが、どのようなことを伝えていきますか。これを説明した次の文の空欄くうらんにあてはまる言葉を考えて、五字以内で答えなさい。

部活に ということ。

問二、——②「穂香の声が、わたしの心をざらざらと削っていく」とありますが、これが表しているトコの様子として最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 穂香が一方的に勝手なことばかりを並べ立てるので、頭が疲れてしまって話についていけない様子

イ 穂香に言われることが今の自分にとっては重く感じられるので、不愉快ふゆかいに思う気持ちつのが募っていく様子

ウ せっかく自分から部活に協力しようと思ひ始めたのに、部活への復帰せまを迫る穂香にやる気が失うせた様子

エ 話し続ける穂香の話があまりにもつまらないので、飽あきてしまつて集中力とぎが途切れていっている様子

問三、——③「わたしがもう一度『ん』と言つて黙つてしまふと」とありますが、わたしが本当に父親に伝えたかったこととして**ふさわしくない**ものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア もつと早くママのことをパパに知らせたかったということ

イ パパにそばにいてほしかった、支えてほしかったということ

ウ ママもパパもいなくなつてしまい、とても心細いということ

エ パパに早く戻もどつてきてもらひ一緒いっしょに暮いらしたいということ

問四、——④「おばあちゃんのかん高い声が聞こえてきた」とありますが、おばあちゃんの手嶋さんに対する気持ちを説明した次の文の空欄にあてはまる言葉を考えて、五字以内で答えなさい。

手嶋さんが娘や孫につらい思いをさせたことを という気持ち。

問五、——⑥「穂香はいろんなことに恵まれていて」とありますが、トーコに穂香が恵まれていると感じさせているのはどのような物ですか。これより前の文中から二十八字で探して、最初の五字を答えなさい。

問六、——⑦「穂香の目が、小さく左右に動いた」とありますが、このときの穂香の気持ちとして **ふさわしくない**ものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア あわれみ イ おどろき ウ とまどい エ ためらい

問七、——⑧「サイテーだ。わたし、サイテーだな」とありますが、わたしは自分のどのようなところを「サイテーだ」と思っているのですか。これを説明した次の文の空欄にあてはまる言葉を文中から五字以内で抜き出して答えなさい。

穂香に悪気がないのはわかっているのに、つらい思いをおさえきれなくなり穂香に してしまったこと。

問八、——⑪「パパのことを考えた」とありますが、ママが考えたことの具体的な内容にあたる部分を文中から二十二字で探して、最初の五字を答えなさい。

問九、——⑫「虹は空に近づくにつれて薄くなり、アーチを描くことなく途切れていた」とありますが、この文が象徴しやうちやうしている事柄ことばらとして最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 家族が力を合わせて問題を解決しようとしていること

イ トーコが母親と心が通い合わないと感じていること

ウ 母親の病状が思わしくなく、退院のめどがたたないこと

エ 父親が仕事の関係で二人から遠く離れた場所にいること

問十、——⑭「すごく無責任だよ」とありますが、わたしがママを「無責任」と感じたのはなぜですか。これを説明した次の文の空欄にあてはまる言葉を考えて、五字以内で答えなさい。

親として自分が産んだ子どもを 責任を放棄ほうきしているように聞こえたから。

問十一、——⑤「ナれない」・⑩「カイ犬」・⑬「シツパイ」のカタカナを漢字に直し、——⑨「支え」・⑮「意思」の漢字の読みを答えなさい。

二、次の文章を読んで、あとの各問いに答えなさい。なお、文中の言葉の下の「」の中はその言葉の意味とする。

サルサルの社会は、①個体の欲求ゆうせうを優先ゆうせんします。個体こたいにとっての利益りえきとは、「なるべく栄養価えいようかの高いものを食べること」と「安全あんぜんであること」です。

サルは群れの中で序列しつがを作り、全員ぜんいんでルールに従したがうことで、個体の利益りえきを最大化さいだいしています。自分より強いサルサルの前では決して食べ物たべものに手を出さないのは、食べ物たべものをめぐるトラブルたふらぶるを未然みぜんに防まぐためです。あらかじめ勝ち負けかちまけを決めておき、勝かちったほうが食べ物たべものを独占どくせんするのです。

それでは負けたほうはえらく不利益ふりえきを被ひるのではないかと思えるでしょうが、そんなことはありません。サルサルの食べ物たべものはほとんどが植物しょくぶつで、わりあい手に入りやすいものばかり。だからわざわざ争まじわなくても、どうにかなる。弱いものにしてみても、食べ物たべものをめぐる無駄むだに争まじうよりは、遠慮えんりよしたほうが結局けつくりは得えだという知恵ちえがあるのです。

③これは非常に経済けいぎ的なシステムシステムです。絶対ぜったい的な序列しつがの中なかにいるから、効率こうりつがいい。サルサルが群ぐれているのは、集あまっていたほうが得えだからにすぎません。その証拠しやうこに、サルサルは群ぐれから一度いちど離はなれれば、その集あまりに対する愛着あいしやくを示しすことは一切いっけつありません。

サルサルとは違ちがって、人間にんげんは自分の家族かぞやコミュニティコミュニティを愛あいし、縛しばられて生きていくものです。それが人間のひとつの根源こんげん的なアイデンティティアイデンティティ「主体性しゅたいせい」だと私は考かんえています。しかし、家族かぞが崩壊ほうかいすれば、自分自分がどの家族かぞの出身こんげんであるか、あるいは自分自分がどのコミュニティコミュニティ「共同社会きょうどうかい」に所属しよじゆくするかということも、もはや人はアイデンティティアイデンティティとして必要ひつやうとしないでしょう。

家族かぞというものは確かに、個人こじんにとつて足かせあしかせとなる存在そんざいではありません。ときには血ちのつながりが邪魔じゃまに思おもえることもあるでしょう。家族かぞのしがらみ「複雑ふくざつな関わり合いかんわりあひ」が自分の行動こうどうをセイゲンセイゲンし、嫌いやな思おもいをするすることもあるでしょう。

しかし家族かぞという集あまりは、足かせあしかせと引き換かえに、喜びよろこびや満足まんぞくをくれるものでもあります。家族かぞを失うった現代げんたいの人間にんげんは、個人こじんとして

意思決定を自由にできるようになりつつありますが、それは本当に幸せなのか。^⑤

食べ物を家族で分かち合い、共同体とともに子育てを行うといった行動は、人間の心を進化させ、高い共感能力を芽生えさせました。共感能力とは、自分以外のものの気持ちを理解する力のこと。人間以外にも、ゴリラやサルにも共感能力は見られますが、人間ほどではありません。

一九九〇年代に「ミラーニューロン」というものがイタリアの研究チームによって発見されました。ミラーニューロンとは、鏡のように映し出す神経細胞、という意味です。マカクザルというサルで調べられたのですが、ある行為をしている実験者（人間）を見ているサルの脳の中を見ると、その行為を実際にしている実験者の脳の中で発火しているのと同じところが発火しています。

これはつまり、行為を見ているサルは、行為をしている実験者と同じことをやっている気分になっているということ。見ているだけで、同じ事を行っている気分になっているんですね。だから鏡に映るかのようには、脳と同じ場所が反応するんです。

この脳の反応は共感能力を意味しています。最近では、機能的核磁気共鳴画像法（fMRI（脳を調べる画像））などを用いて人間の脳にも強力なミラーニューロンが存在することが強く示唆されています。^⑥サルに比べて、人にはとても高い共感能力があるという事です。

共感能力が発達することで、人間の子どもはほかの類人猿の子どもにはない「憧れる」という能力を持つようになりました。「将来、あんな大人になりたい」「社会で、こんなことをしたい」といった気持ちを持って、人間の子どもたちは成長します。ゴリラの子どもは当たり前のようになり大人になっていきます。成長の過程で何かになりたいたいと思うことはないでしょう。

人間の子どもは憧れの対象を見つけ出し、目標を立て、他者に自分を重ね合わせて未来を想像します。すると大人は、子どもにいろいろ教えてやりたくなります。子どもがいろいろな未来に夢をはせるものだから、大人はついついその手伝いをしたくなるのですね。

大人たちは育児にかかわり、子どもたちを導いてやる。これが教育です。教育とは子育てのエンチョウですね。人間の子育ては、ほかの霊長類「人とサルを合わせた呼び方」に比べてますます長くなっていきました。

教育というのは人間ならではのものです。これはとてもお節介な行為で、非常に人間らしいものと言えます。頼まれてもいいし望まれてもいいのに助けにいくところが人間にはあって、教育はその最たるものなのですね。

ではどうしてそんなにお節介になるかということ、共感力を高めて作り出したシンパシーという心理状態がもたっている。シンパシー、つまり同情という感情はほかの霊長類には希薄です。人間に特殊な情緒なんです。

同情心とは、相手の気持ちになり痛みを分かち合う心です。この心がなければ、人間社会は作れません。共感以上の同情という感情を手に入れた人間は、次第に「向社会的行動」を起こすようになります。

向社会的行動とは、「相手のために何かをしてあげたい」「他人のために役立つことをしたい」という思いに基づく行動です。人類が食べ物を運び、道具の作り方を仲間伝えたのも、火をおこして調理を工夫したのも、子どもたちに教育を施し始めたのも、すべて向社会的行動だろうと私は思います。

大昔から人類は家族のために無償で世話を焼き、共同体の中では互いに力を出し合い、助け合っていたのでしよう。認知能力が高まったから、このような思いやりのある社会が作られたというよりは、その逆で、向社会的行動が人類の認知能力を高めたのだと思います。

人間の持っている普遍的な「すべてに共通する」社会性というのは、次の三つだと私は考えています。

ひとつは、見返りのない奉仕をすること。これは家族内では当たり前のことですが、そこに留まらないで、見ず知らずの相手や自分とはゆかりのない地域のためにボランティア活動などを行えるのが人間です。

人間は、共感能力を成長期に身につけます。自分を最優先して愛してくれる家族に守られながら「奉仕」の精神を学んでいきます。そんな環境の中で、「誰かに何かをしてあげたい」という気持ちが育っていく。そしてその思いは家族の枠を超えて、共同体に対しても、もつと広い社会に対しても広がっていきます。

二つめは互酬性です。何かを誰かにしてもらったら、必ずお返しする。こちらがしてあげたときには、お返しが来る。これは共同体の維持のためのルールですね。会社などの組織も基本的にはこのルールのもとに成り立っています。また、お金を払ってモノやサービスなどの価値を得るといふ経済活動が、まさしく人間の互酬性を表しています。

三つめは帰属意識です。自分がどこに所属しているか、という意識を人間は一生、持ち続けます。たとえば私の場合は、山極家の寿一という男で、京都大学で教鞭をとっている。私の帰属意識は山極という家と、京都大学という職場にあります。それがアイデンティティのひとつになる。

逆説的ですが、人間は帰属意識を持っているからこそ、いろんな集団を渡り歩くことができます。集団を行き来する際、常に人間は自分の所属を確認し、それを証明しなくてははいけません。それはほかの動物にはできないことです。人間は、帰属意識を持っているからこそ世界中を歩き回ることもできるし、自分自身の行動範囲や考え方を広げていけるのです。人間は相手との差異を認め尊重し合いつつ、きちんと付き合える能力を持っていますが、その基本に帰属意識があると思います。

家族も共同体もなくしてしまつたら、人間は帰属意識も失います。人間は、互いに協力する必要性も、共感する必要性すらも見出せなくなっていくでしょう。

(⑫) さえ獲得すればいいなら、何かを誰かと分かち合う必要もありません。他人を思いやる必要もありません。遠くで誰かが苦しんでいる事実よりも、手近な享樂を選ぶでしょう。どこかの国の紛争なんて、他人事。自分に関係ないから共感なんてする必

要もない。これはまさにサル社会にほかなりません。

サル社会に近づくということは、人間が自分の利益のために集団を作るといことです。そうなれば、個人の生活は今よりも効率的で自由になります。しかし、他人と気持ちを通じ合わせることはできなくなってしまいました。

もしも本当に人間社会がサル社会のようになってしまったら、どうなるのでしょうか。サル社会は序列で成り立つピラミッド型の社会です。人を負かし自分は勝とうとする社会、とも言い換えられます。そんな社会では、人間の平等意識は崩壊するでしょう。

今、日本ではあえて家族を作らず個人の生活を送る人も増えてきました。家族の束縛から離れて、自由で気ままに暮らすというわけです。しかしここには見落とされていくひとつの危険な事実があります。

それは「人間がひとりで生きることが、平等に生きることには結びつかない」という事実です。家族を失い、個人になってしまったとたん、人間は上下関係をルールとする社会システムの中に組み込まれやすくなってしまいます。

(中略)

また、家族には、家族内の問題を解決し、家族がどんな選択をするのかを決める決定権があります。家族にしか家族のことは決められません。「私には家族がある」「私は家族を持っている」という意識こそが、人間の心の安定の根底にあるものだと思います。

家族をなくして集団ゲンリ^⑬だけでやっていくことは、優劣を重視したサル社会に移行することだと私は今、思っています。

(山極寿一 『サル化』 する人間社会) より 一部表記・体裁を改めた)

問一、——②「結局は得だ」とありますが、どのような意味ですか。これを説明した次の文の空欄にあてはまる言葉を考えて、五字以内で答えなさい。

争って

をせずに済むということ。

問二、——③「これ」の具体的な指示内容にあたる部分を、文中から二十二字で探して、最初の五字を答えなさい。

問三、——⑤「それは本当に幸せなのでしようか」とありますが、筆者が幸せではないと考える理由にあたる部分を、結論が書かれている部分から「から」に続くように三十七字で探して、最初の五字を答えなさい。

問四、——⑥「サルに比べて、人にはとても高い共感能力があるということですが、「共感能力」が高まることにより身についた二つの感情をそれぞれ文中から五字以内で抜き出して答えなさい。

問五、——⑧「頼まれてもいないし望まれてもいないのに助けにいく」とありますが、このような行動は、筆者が言う普遍的な「社会性」のどれにあたりますか。文中から十字以内で抜き出して答えなさい。

問六、——⑨『『向社会的行動』』とありますが、この行動の具体的な例としてふさわしくないものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 駅で具合が悪くなって倒れてしまった人を、居合わせた人たちが介抱する

イ 勉強と部活動の両立に悩む友だちの相談を、時間をかけてじっくりと聞く

ウ 仕事で長引き、終電が出してしまった駅で、迎えに来る家族の車をずっと待ち続ける

エ 野球チームのコーチとして、チームが試合で勝てるように厳しい練習を選手に課す

問七、——⑪「人間は帰属意識を持っているからこそ」とありますが、どのような意味ですか。これを説明した次の文の空欄にあてはまる漢字二字の言葉を文中から抜き出して答えなさい。

人間は帰属意識を持つていることで、立場的にも心理的にも が得られるからということ。

問八、(⑫) にあてはまる言葉として最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 個人の所屬　イ 個人の利益　ウ 個人の差異　エ 個人の行動範囲

問九、本文を次の小見出しの四つの内容的なまとまりに分けたとき、二つ目のまとまりが始まる最初の五字を答えなさい。

一つ目　人間の集団に対する愛着

二つ目　人間の共感能力

三つ目　人間の三つの社会性

四つ目　人間の帰属意識の重要性

問十、本文の内容として最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア サルの群れは個体の欲求を優先するので、群れを離れたサルはその群れに愛着をもち続ける

イ 類人猿にも共感能力があるため目標を持つて成長するが、未来を創造する能力はない

ウ 向社会的行動が人間の認知能力を高め、シンパシーのある社会を作り上げた

エ 家族や共同体は人間に帰属意識を与えるが、その反面他の集団との交流を妨げるさまざま

問十一、——④「セイゲン」・⑦「エンチョウ」・⑬「ゲンリ」のカタカナを漢字に直し、——①「欲求」・⑩「基づく」の漢字の読

みを答えなさい。

合計

問十一	問八	問五	問三	問一
④ セイゲン	問九			
① 欲求				
⑦ エンチョウ			問四	問二
⑩ づく				
	問十			
⑬ ゲンリ		問六		
			問七	

問十一	問八	問五	問一
⑤ れない			
⑨ え			
⑩ い犬	問九	問六	問二
⑬ シッパイ			
	問十	問七	問三
			問四

受験番号
氏名